

\*\*\*\*\*

第 138 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

CXXXVIII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

\*\*\*\*\*

日時：2020 年 6 月 14 日（日）14:00 - 16:00

場所：Zoom を利用し、オンライン開催

特別テーマ「オンライン授業実施方法と評価」

\* Fecha y hora: domingo, 14 de junio de 2020, de 14:00 a 16:00

\* Reunión en línea con el sistema Zoom

\* Tema especial de la reunión de junio: “Experiencias en las clases en línea y la evaluación”.

\*\*\*\*\*

参加者：17 名（世話役 2 名含む）

## 当日の進行

### 開会・導入

#### セッション①：『評価方法について』グループディスカッション

参加者を 4 グループに分け、テーマについて約 25 分間ディスカッション。

書記係が話し合った内容をシートにまとめて記入し、セッションの最後に全体でごく簡単に共有した。

#### セッション②：『授業実践方法について』グループディスカッション

参加者を 4 グループに分け、テーマについて約 10 分間ディスカッション。

一度グループ替えをして、再度同じテーマについて約 10 分間ディスカッション。

書記係が話し合った内容をシートにまとめて記入し、セッションの最後に全体でごく簡単に共有した。

#### セッション③：『まとめ』全体ディスカッション

セッション①②の内容を念頭に置きながら、全体でディスカッションを続けた。

### 連絡・閉会

以下、セッション①について世話役小川雅美が、セッション②③について世話役柳田玲奈がそれぞれ報告する。

## 第1セクション『オンライン授業での「評価」に関して』

### はじめに

この報告においては、報告の筆者(小川)の文章を斜体、例会の話し合いで出た内容を立体で表記する。

第1セクションでは、4~5名のグループ4つで、それぞれ「評価」方法についてディスカッションが行われた。各グループの書記が、配布されたシートに記入する方法でメモを作成した。立体で表記されているものはそのメモをもとにしている。

### 報告内容

#### 1. メンバー担当の授業に関する評価方法

対面授業では定期試験<sup>1</sup>が主な評価方法になる場合が多いが、オンライン授業においては次の3つが考えられる。

- (1)条件付きでの定期試験実施
- (2)定期試験での評価に依存しないため他の方法との組み合わせ
- (3)定期試験を実施しない

多くの教員が、定期試験に依存せず、課題や小テスト、ライブ授業(Zoom など)の参加状況などから多面的に評価する方法を取っているようである。

#### 1.1 定期試験<sup>2</sup>

- 大学から「定期試験をしてもよいが、するならオンラインで」という通達が出た。
- 大学から「テスト評価をしないことに決定」という通達が出た。
- 期末試験は自由作文、和訳、西訳。翻訳アプリを使わない方がいいということをお知らせしておき、ルーブリック方式で行う予定。

#### 1.2 小テスト

- 文法内容の理解等を小テストで測る。
- 大学のWEB学習ツール(=Learning Management System)を利用(例:manaba<sup>3</sup>)
- Microsoft社のオンラインアンケート等の機能を利用
- Google Classroom、Google フォームを利用

---

<sup>1</sup> 本稿の場合「定期試験」は各授業で実施されうる「中間試験」「期末試験」など成績に占める割合の大きいものを指す。

<sup>2</sup> 提出されたメモには、定期試験を既に実施した旨の内容はなかった。

<sup>3</sup> manabaのサイトは次の通り。<https://manaba.jp/products/>

### 1.3 課題

- 課題の提出状況と内容によって評価を行う。
- 課題の出来栄で評価(実際の理解度は不明だが)。
- 毎回課題を提出させ、添削をして細かくコメントする。
- スライド(Power Point)音声動画(文法説明)とスライド資料を各自見て自主学習させる。その学習内容についての課題を提出させる。
- Google Classroom、Google forms などの機能を用いて課題を提出させる。

### 1.4 ライブ授業(Zoom など)への参加や会議システムを利用した評価

- Zoom(ライブ授業)への参加。
- 積極的授業参加60%(サインインで出席)<sup>4</sup>
- Zoom(投票機能) 使用<sup>5</sup>
- Zoom の投票機能を用い、クイズ形式で出題。

### 1.5 出席状況

- 課題を出せば出席とみなす。
- 出席評価(前・中・後<sup>6</sup>)
- 授業最後に manaba にコメント提出でカウント。出席できなかった学生には復習課題を出す。

---

<sup>4</sup> この「積極的」「サインイン」についてはライブ授業での発言の仕方のことかどうか不明。この報告ではライブ授業参加に含めている。

<sup>5</sup> Zoom の「投票」で個人別に評価を行えるのか筆者には不明。投票を評価に用いると答えた参加者が複数いたので、可能なのであろう。

<sup>6</sup> このメモの「前・中・後」については明確ではないが、授業中に3回出席確認をしているものと考えられる。

## 2. オンライン授業と対面授業それぞれによる評価方法比較

オンライン授業	対面授業
<p><b>プラス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動採点ができる(部分点は手で見ないといけなが)</li> <li>● オンライン課題に感想を書き込みやすいので、1人1人のことが見やすい面もある</li> <li>● 質問しやすい</li> </ul> <p><b>マイナス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生がテスト中に不正行為をしやすい。</li> <li>● 不正をしたかどうか確認できない。</li> <li>● 教科書・辞書を見ながらやるものになってしまう</li> <li>● 初級文法だと出題が難しい</li> <li>● 難しすぎる問題だと誰もできなくなってしまうかも</li> <li>● 大学の web 機能はサーバーダウンしてしまいがち(forms、google formの方が良い)</li> <li>● 課題が多くなり、負担が大きい。</li> </ul>	<p><b>プラス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 不正行為を発見しやすい。</li> <li>● 試験の不正を防ぎやすい。</li> <li>● 口頭で説明する方が楽</li> <li>● 課題が多くなりすぎない。</li> </ul> <p><b>マイナス</b></p>

上の表は、グループディスカッション用に配布したシート内の評価方法比較表に記入のあった2グループの記載内容をまとめたものである。このうち1つのグループではオンライン評価のプラス面はなく、グループディスカッション後の全体での話し合いでも、「オンライン評価の話をするすると暗くなる(だけ)」というコメントがあった。もう1つのグループからは、上のようなオンライン評価のプラスの側面も出た。しかしながら、オンラインの場合評価を行うことは総じて困難で、特に不正行為を防いだり発見したりすることが困難であるという点が重大な問題であるという見解で一致が見られた。公正な評価ができなければ、評価に対する信頼が不十分となる。各自が自宅等で行う試験の様子を教室内と同様に監視することが不可能であること、また仮にそのようなことが技術的に可能になったとしても倫理上許されるのかという問題がある。

### 3. その他(実践例・問題点・お困り相談・その他自由なコメント)

#### 3.1 定期試験

・お困り相談: テストの監督をすべきか? Zoom で試験監督をすることを検討中。通信トラブルがあったらすぐチャットで知らせる、学生が不審な動きを少しでも減らすように監視することが目的。ただ、そういう監視の仕方に問題ないか。←(回答)テストの通信環境に悪影響だと Zoom やめた方がよい。

#### 3.2 小テスト

特にコメントなし。

#### 3.3 課題

課題についてはもっともコメントが多かった。このことは、評価方法において課題の占める重要性が高いことを示すとともに、その実施方法や問題点など議論になりやすいことを示している。

#### 課題評価に向けての授業例

- ・初級のクラスでは、自己紹介・町の紹介についての課題を出す予定。中級のクラスでは、ある曜日の 1 日の行動について書かせる。最後の授業で manaba の小テストをする予定。Flipgrid というサイトで、ビデオで音読したものを出させる。Native の先生が同サイトを使用中。モデル文と同じようなものを作成させる。時間との勝負。
- ・オンデマンド課題を授業時間中にしか受け付けられないようにしている(最初のうちはネット環境などの問題があったが、今は慣れているはずなので、締め切りを切っている)。学生がペースを保って生活できるため。対面の時と同じように、授業時間に学習活動に集中させるため。

#### 問題

- ・課題だけだと、動画を見ないで課題だけ提出している学生がいる。どうしたらいいか。授業で提示されていない表現を学生が Google(自動翻訳)などで調べて答える。
- ・課題を、教科書を見ないでやっている学生がいることがわかった→教科書を見ないとできないような課題を出すようにした。
- ・1 年生は課題が多すぎる。
- ・リアクションペーパーへの返信がマメな先生とそうでない先生がいる。返信ができないなら課題を出さないでほしいと感じる<sup>7</sup>。

---

<sup>7</sup> このコメントは、学生の提出物へのフィードバックのタイミングが遅いと、学生の学習意欲に悪影響となる、という理由である。ただ、課題を出さざるを得ない状況と、リモートワークの労働が過重であることを考え合わせると、「課題を出さない方がよい」という判断はあくまで担当教員自身が諸般の事情を考慮して決めるべきではないかと筆者には思われる。全体の話し合いの中で、「個々の学生へのフィードバックが無理でも、全体へのコメントを何か行う方法であれば可能である」というコメントが出た。このような議論を通して、各自が自分の仕事をどうマネージすればよいかについてヒントが得られるであろう。

### 3.4 ライブ授業(Zoom など)への参加や会議システムを利用した評価

- ・ブレイクアウトルームを使っている授業もあるが、機能していない。そのため、その活動は成績とは無関係にならざるを得ない。
- ・投票機能でクイズを出して評価をしようとした。表記の問題でアクセントなどの入力でトラブルした学生が出ると、評価にどう反映するか? など判断に困るケースがあった。

### 3.5 出席状況による評価

特にコメントなし。

### 3.6 評価方法全般について

- ・詳しい成績評価法を規定していないクラスもある。
- ・先生に一任、「おまかせ状態」の学校もある。
- ・クォーター制の授業があるが、まだ成績をつけていない。
- ・親切にしすぎてはいけないということがわかった。
- ・こちらから提供していることを読む学生と読まない学生の差が顕著になってきている。
- ・こちらが提供している学習内容を学習しているかどうか?

## 終わりに

学校の正規課程では、計画が示され、実行され、ゴールに至らなければならない。ゴールとは、大学においては成績評価と単位認定、そしてそれらに(少なくとも部分的には)反映させるべき学生たちの学習成果である。今回最大の問題は、その成績評価の公正さ、信頼性がどのように担保されるかということである。ほぼ全面的、そして学期全体を通じたオンライン授業という事態について、誰にも経験知がない。

このことは、学生たちの学習活動の方法、意欲、やり甲斐、学生たちのセキュリティ・プライバシー保護や個々の事情への配慮といった、遠隔的に見えにくい、コントロールしにくいファクターとどう取り組むか、という側面、そして、リモートワークによる教員の労働の増大という側面抜きに考えることはできないであろう。個々の条件は教員間で共有できるであろうが、それらの条件の複雑な組み合わせは、個々の教員独自のものである。

そのような個々の状況の中で、どのような教育内容を実現するかを教員が決め、説明可能な評価方法が明確化できれば、それが現状では最も適切な評価方法であろう。正解は1つではありえないが、大きなトラブルを回避すべく、多角的に評価の方法について考える機会の1つが今回の話し合いであったと言えよう。

情報交換や議論を通し、教員仲間がそれぞれに、限界の中でよりよい方法を模索しつつ実践していることがわかった。また、自分が置かれている状況の中で諦めるのではなく、多様な発想に接することで、新たな道が開かれていくこともあると実感した。

## 第2セクション『授業実践方法について』

### 進行方法

このセクションでは、グループ分けを2回行った。第1ラウンドの4グループをそれぞれA, B, C, Dグループとし、第2ラウンドの4グループをE, F, G, Hグループと呼ぶこととする。

第1セクションでは、オンライン授業における「評価」の方法について話し合われた。それを踏まえてこの第2セクションでは、4グループに分かれて最初の10分、グループを替えてもう10分、実際のオンライン授業での「教え方」について話し合い情報交換を行った。話し合った内容は、配布したシートにメモとして記入してもらい、最後に回収させてもらった。

以下、各グループがシートに記入したメモの内容を、基本的にそのまま表の形で提示する。なお、読みやすさや書式統一の観点から、報告作成者（柳田）が適宜訂正したり言い換えたりした個所がある。

また最後に、全グループの内容を俯瞰して報告作成者の簡単なコメントを述べる。

### 内容

#### グループ A

教え方（ねらいと方法）	条件・理由等
teams でリアルタイム授業。ブレイクアウトは使わず、練習問題はあてて答えさせる。	・ブレイクアウトをしないのは、1年生は学生同士が知り合いじゃないから。 ・反応が薄いのは仕方ない。
youtube に解説動画をアップ。解答配布。テストはスラックで配布。時間内に解答。	まめにメールをくれる学生もいれば沈黙の学生もいる。後者はどうしているのか不明。到達度に差が出ていないか危惧。
zoom でグループワークを多用（会話したり文法問題を解いたり）。小テストも実施。	どのくらいやっているか、どこが間違っているのかなどを確認できるが、それにコメントを書くのが大変。

#### グループ B

教え方（ねらいと方法）	条件・理由等
zoom で。 ペンタブレット、ホワイトボード機能（全員が書き込める）	みんなで添削しあえる。 黒板に行ったり来たりをなくせる。 使えない人には大学のフォロー
パワポに音声をつけておこなっている。 クイズレットで動詞の活用を覚えさせる。 オンラインのテスト機能を使う（やったら点数をあげる）	ズームを使うことに抵抗がある。 ビデオを残すよう大学側から要請。でも、録画を残したくないので、パワポを使う。 クイズレットは音声は載せられる。音声は

小テスト 4 回 レポート	中南米系。
iPad のアプリを (Goodnotes5) 使って、教科書の pdf を映し出し、画面録画+音声で動画を写している。	動画のほうがいつでもできるので、教員側の時間の制約がない (学生もそうだと思うので)。

#### グループ C

教え方 (ねらいと方法)	条件・理由等
オンデマンドよりもリアルタイム多め	さぼる学生が出ない
Powerpoint で URL を飛ばし、Microsoft のクイズなどをこまめに実施	回答が円グラフで表示される 正解率や実施人数がわかるのが利点 (あと何人まだやっていません、等言える)
90 分やり切って課題は少なめ	学生の課題の負担を減らす 90 分オンラインは学生も教員も負担では? →時間配分を意識しながら
ブレイクアウトルーム、Googleform 記述、Zoom 投票機能等で、理解度の確認をして自己評価をさせる。 50%以下のところはやり直し。	Googleclass は使いまわし可能 Zoom の時は事前に Word 等で資料や課題を用意しておく
Zoom で 60 分のみ実施 学生に質問やコメントを書く機会を設けたり課題を行ったりしている 学生のチャットは個人で来ることが多い	時間が長すぎるとお互い集中力が続かない。 教員次第
30 分授業、30 分課題、30 分解説	

#### グループ D

教え方 (ねらいと方法)	条件・理由等
ひとこと作文	非専攻 2 年生 slack
グループ答え合わせ	非専攻 1 年生 専攻 1 年生 総合 (LL) Zoom 授業 カメラ on off 学習後、雑談してもよい。ホワイトボード
Zoom 小テスト・期末テスト	GoogleForm 時間制限 カメラ on Classroom でも時間管理 期末試験は二部制
発音練習	ミュート解除 発音の矯正 対面と同じ雰囲気味わう
スペイン語 SNS 紹介	自分でスペイン語の世界に飛び込む
暗唱	録画提出!

グループ E

教え方 (ねらいと方法)	条件・理由等
基本はオンデマンド。毎朝指示書を送って、何時までに送ってきなさい、という形が基本。SNS 読ませたりも。(2年生)	SNS は結構うまいことやってくる。(2年生)
1年生は「一言国紹介」というアクティビティ。国をこちらで割り当てて、調べてきたことを 5~8 行で発表。他の人はそれに反応する。	こちらから言うのではなく、調べさせたらいいじゃないかと思った。対面でもやりたい。
グループワークなしで、全員に話す。質問は最後に受け付ける。	
PC で資料を作って授業という経験がなかった。PC の資料を作ったり、事前配布したりというのは対面授業でもしていきたい。	
Zoom を使用。 Word で作った資料を手元に置いてもらう。パワポを黒板のように使ったり、チャットで確認したりも。 課題は小テスト(教科書と同じような問題)を作っている。	
対面授業では manaba とかに課題をアップしてもあまりやらなかったが、オンラインだとやっている学生が多い。	

グループ F

教え方 (ねらいと方法)	条件・理由等
ネイティブはライブで授業。 Zoom 無料、GoogleDrive (筆記テスト) 文法—会話—グループセクション。 オンラインのメリットは、個人のケアができる。 細かい所を評価に反映させるには？	
Teams、Zoom でのブレイクアウト 5 分。 クイズ (Forms)。	

グループ G

教え方 (ねらいと方法)	条件・理由等
<p>中級第二外国語 (30 人) グループワークを多く。 例文をたくさん書かせる。 チャットに書いてもらってコメントして修正する。</p>	<p>アウトプットの機会を多くするため。</p>
<p>中級第二外国語 (講読) パワポ (音声なし) で解説を詳しく書く。それを見ながら学生が読解する。 毎回読んだ個所に関する課題をオンラインのテスト機能で提出。 読んだ個所に関して、5 人くらいずつに訳を提出させ、みんなで共有。</p>	<p>授業内容を共有するため。 学生が自分のペースで読めるところが良いとのコメント。</p>
<p>1 年第二外国語。 要配慮学生がいて、Zoom 授業はしない。 オンデマンド。 大学が用意している動画と、練習問題解説動画を送っている。 授業終了時間内に問題を解かせて送らせている。</p>	<p>学生の到達度を把握するため。</p>
<p>Slack で、15 分で写メで送ってくる。それを採点して、学生に送り返す。</p>	
<p>中級第二外国語 (38 人)。 要配慮学生いるので Zoom はしていない。 文学講読。 手書きで単語帳を提出。 質問を 5 つ以上書いて提出。 質問をまとめてリストにして、次回の授業中にそのリストを見て訳して提出。</p>	

グループ H

教え方 (ねらいと方法)	条件・理由等
<p>この場にはいないが、ツイキャスを使用している先生あり</p>	
<p>高校 オンデマンドで課題を課し、成績に必ず反映させる。</p>	

課題に取り組まないと解けない問題を出す。 学生として参加している大学院の授業では少人数なので機能する。	
ゼミは機能する。	
Good Note というアプリでテキストの PDF に声を入れる。	
ペアの先生と授業の仕方が違う。	
Microsoft Forms を使って、こまめにクイズを出し、理解度を共有。	

### 報告作成者コメント

ディスカッションそのものにかかる時間が当初の予定より短めになってしまい、グループの中で全員が落ち着いて考えをまとめきれなかったことがメモから感じられたのは、少し残念だった。

しかし、教員ごとの限られた条件や環境の中で、いかにして評価の公平性を保ち、かつ受講生たちの実質的学習活動を下支えし、そして受講生たちの意欲向上に心を砕いているかということが、随所に見て取れる。

教室における対面形式でないことで多かれ少なかれ ICT を利用せざるを得ず、その方面における経験量や知識は教員ごとに大きく差があることが想像できる。また、同じことが受講生側にも言え、物理的制約により利用できない技術やサービスもありうる中で、今期の授業はとにかく教員と受講生お互いの協力関係、信頼関係を土台に成り立っていたのであろうと改めて強く感じた。

また、今期のオンライン授業を実施する中で、動画作成や資料作りなどこれまであまりやったことのなかった方法の良さを知り、今後オンライン授業でなくなっても対面授業で活かそうとする声がちらほら聞こえる。やむにやまれぬ事情により暗中模索の中始まった今期のオンライン授業だが、教員の経験値や知識、技術を向上させる荒療治的作用を及ぼしているであろうことは間違いなく、その側面を報告作成者は好意的に見ている。

### 第3セッション『まとめ』全体ディスカッション

#### 進行方法

このセッションでは、これまでグループごとに話し合ってきたこと全体を見渡して、さらに話し合いを発展させた。第1セッションと第2セッションにおいて出た意見やアイデアについてさらに意見を重ねたり、そこから派生して別のアイデアについて話し合われたりした。

以下は、報告作成者（柳田）が話し合いに加わりながらとったメモに基づく内容だが、聞き漏らした内容もある。発言の内容を誤解している場合なども含め、文責は報告作成者にある。

#### 内容

- ▶ Zoom で新出単語を画面に出し、アクセントのある位置に学生にマークをつけさせる。最初やっただけでそのうち忘れていきがちなアクセントの位置をその都度復習でき、定着することが期待できる。
- ▶ 学生がスペイン語入力に慣れてきているかどうか？課題をやらせたりテスト的なことをオンラインでするなら、キーボードによるスペイン語入力をクリアしておかなければいけない。教員が Windows ユーザーで Mac の操作が分からず、学生に指導しにくいことがある。
- ▶ 講読授業のやり方不正行為防止のため、手書きしたものを提出させている。画面上で学生たちに質問などをどんどん書き込ませ、それに対して答えまくっていく。
- ▶ 学習効果を考えると、提出された課題にはフィードバックが必要。細かい間違い直しまでして返却することはできないが、点数くらい伝えることはできる。あとは解答を配布して自分で確認させる。
- ▶ 解答を配布すると絶対来年度以降それが出回って同じ教科書が使えなくなるので、解答をファイルで配布する方法は危険・・・
- ▶ Goodnotes5 というアプリを使い、pdf 化した教科書に直接書き込み、それを録画して動画作成
- ▶ 学生が画面をオフにしてミュートにしていると、壁に向かって話しているようで、こちらのモチベーションがそがれる。しかしこういうスタイルである以上、学生の反応を期待するのは無理がある・・・